

# 2024年度 一般入学試験 前期日程 (1月30日)

## 国

## 語

(試験時間 60分)

### 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、29ページあります。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。

① 試験コード欄・座席番号欄

試験コード・座席番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名・フリガナを記入しなさい。

- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10
----

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答 番号	解 答 欄									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。





## 第1問

次の文章を読んで、後の問い（問1～11）に答えなさい。

この部分に記載されている文章については著作権法上の  
問題から公表することができませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については著作権法上の  
問題から公表することができませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については著作権法上の  
問題から公表することができませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については著作権法上の  
問題から公表することができませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については著作権法上の  
問題から公表することができませんので、ご了承承願します。

(坂口恭平の文章による。ただし、一部変更した。)

(注)

- 1 ルドルフ・シュタイナー：ドイツの哲学者・神秘思想家・教育思想家（一八六一―一九二五）。子供の個性と世界との調和を重視する「シュタイナー教育」の提唱者として有名。
- 2 南方熊楠：日本民俗学の創始者の一人（一八六七―一九四一）。動植物学・考古学・宗教学を研究し、和歌山県田辺で変形菌類の採集・研究を行った。

問1 空欄【a】～【c】に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

解答番号は

1

～

3

。

a

1

① また

② ならびに

③ なぜなら

④ たとえば

⑤ そもそも

b

2

① このように

② もちろん

③ ところで

④ こうして

⑤ そして

c

3

① それゆえ

② なぜなら

③ しかし

④ つまり

⑤ もとより

問2 破線部ア「自然の摂理」・イ「起伏」の本文中の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は 4 ・ 5。

ア 「自然の摂理」

- 4
- ① 自然の中で繰り返し起こる出来事
  - ② 自然の中で生じる生死の循環
  - ③ 自然の中では起こりえないこと
  - ④ 自然物を生み出した創造者
  - ⑤ 自然を支配している法則

イ 「起伏」

- 5
- ① 高くなったり低くなったりしていること
  - ② 物事のクライマックス
  - ③ どんどん盛り上がっていくこと
  - ④ リズム感があること
  - ⑤ 最も高くなっている部分のこと

問3 波線部(A)「僕にとって創作物とは」とあるが、筆者にとっての「創作物」はどのようなものか。その説明として最も適切

なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 6。

- ① 視覚が錯覚であり記憶が曖昧になるといように、現実をありのままに見せない世界。
- ② 目の前に広がる世界だけが事実であるとは断定させない、物事がよりリアルな世界。
- ③ フィクションともノンフィクションとも決めがたい、真実が曖昧な世界。
- ④ 現実ではありえない出来事が容易に起こるが、現実とは区別される虚構の世界。
- ⑤ 事実とそうでないものが、境界を明確にせずに混ざり合っている豊かな世界。

問4 波線部(B)「その感覚」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、

記号で答えなさい。解答番号は 7。

- ① 筆者が日々感じている不思議な現象を平易な文章で書いてみることで生じる、思いがけない効果。
- ② 物語の中にしか存在しえないはずの、人間が空間や時間についてなしうる複雑で柔軟な認識。
- ③ 深夜満席になった居酒屋が、煙草の煙や人の声で一杯になることで生じる、面積や体積の拡大。
- ④ 空間の知覚や時間の緩急などについて、事実とは断定できないがたしかに筆者が感じた不思議な体感。
- ⑤ 虚構の中にしか存在しないことが日常の現実には潜んでいると考えた方が自然に思えるという感覚。

問5 波線部C「やっぱりそうだったのか」とあるが、ここで小学生の時の筆者はどのようなことを納得したのか。その説明と

して最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 8。

- ① 平安時代の人が夢を実在するもう一つの世界と捉えていたことを知り、自分が未来の現実を先取りするような夢を見た経験も、的外れではないと思えたということ。
- ② 平安時代の人は夢が実際に存在する世界と捉えていたと知り、「ものがたり」の語の用例が示すように、赤子の声を別世界の言語として捉えていたのも当然と思ったということ。
- ③ 平安時代の人は夢が実際にあると捉えていたから夢の歌が多いということを聞いて、自分がなぜ百人一首に夢の歌が多いのかについて考えていたことと一致したということ。
- ④ 平安時代の人は夢を一種の別世界だと捉えていたことを知り、自分自身が夢の中で未来の現実を先取りできるのも、それが現実だったからだと言信できたということ。
- ⑤ 平安時代の人は夢の世界をもう一つの実在と捉えていたという話を聞いて、夢で見たことが現実に起こる自身の経験を、すでに古人が解決してくれていたと思ったということ。

問 6 空欄 X・Y に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

解答番号は 9・10。

X 9

- ① 非現実
- ② 別世界
- ③ 内在
- ④ 夢
- ⑤ 物語

Y 10

- ① 伝えたがっている
- ② 声をあげている
- ③ 秘密を伝えている
- ④ ものがたっている
- ⑤ 意味を伝えている

問7

波線部D「僕の頭の中でもまさにそのようなことが起きる」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

11。

- ① 蜜蜂が自由に空間を飛び回るように、自分の頭の中でもそれまでになかった発想が自由に飛び交い、新しい思考やアイデアが次々と生まれるということ。
- ② 蜜蜂による受粉が虫自身は意識することなくなされるように、自分の頭の中で意識せずに新しいアイデアとアイデアとが結びつき、それまでにならない自由な発想が生まれるということ。
- ③ 蜜蜂が花粉を別の花に運んで受粉が起こるように、自分の頭の中の言葉やイメージが今までとは違う形で結びつけられ、思考がふくらんで新しい世界を見出すということ。
- ④ 蜜蜂が空間を自由に飛び回って花と花をつなげていくように、それまで結びついていなかった脳神経と脳神経が結びつき、その刺激から新たな考えが生まれるということ。
- ⑤ 蜜蜂による受粉が偶然のようでありながら自然によって決められているように、偶然つながったように見えるアイデアとアイデアの結びつきも、必然的に結びつくということ。

問 8 波線部(E)「当然の偶然」とあるが、ここで用いられている修辞法の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から

選び、記号で答えなさい。解答番号は 12。

- ① 言いたいことを強調して言う誇張法
- ② 概念を人物であるかのように表す擬人法
- ③ 本来言いたいことと逆のことを言う反語法
- ④ 同じ語句を繰り返す反復法
- ⑤ 矛盾した語句同士を結びつける撞着どち語法

問9 波線部(F)「喉ちんこの先の空間」とあるが、これが表す内容として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号

で答えなさい。解答番号は 13。

- ① 息子の意識の世界
- ② 「ものがたり」の世界
- ③ 蜜蜂の意識の世界
- ④ 筆者の記憶の世界
- ⑤ 筆者の夢の世界

問10

波線部(G)「感覚器官という扉の向こうにしっかりと存在している空間を、現実のもとにおびき寄せ、行為のこと」とあるが、これはどういうことか。本文の主旨を踏まえた説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

14

- ① 筆者が言う「ものがたり」とは、自身が内に持っている固有な世界を表出したものであり、言葉や声という形でそれを身体の外側に出すことで、自分の中の世界と外の世界とをつなぐ行為であるということ。
- ② 筆者が言う「ものがたり」とは、身体の内側にある感覚を秩序だった言葉ではなく声や歌など身体感覚を伴う言葉で表出することであり、そのような言葉を用いることで、別世界が現実の空間のうちに立ち現れるということ。
- ③ 筆者が言う「ものがたり」とは、感覚器官の内側で本来は閉ざされている世界を外に向かつて解放することであり、そのため赤子と言葉を交わしたり歌ったりして、身体への揺さぶりをかける必要があるということ。
- ④ 筆者が言う「ものがたり」とは、実在するかしないかが曖昧な世界であり、自己との対話を通してその形を感じ取り、それを他者との対話という形で表に出すことで、初めて現実化するようなものだということ。
- ⑤ 筆者が言う「ものがたり」とは、無意識や夢の世界の中の言葉であり、そうした世界の住人である赤子と話したり自分自身の意識の中を見つめたりすることで、他の人にも感知できるような世界として表に出せるようになるということ。

問11 二重傍線部(イ)～(ホ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答

番号は 15 } 19。

(イ) ホウジユン ||

15

- ① 組織の人数をヘイジユン化する
- ② ジユンタクな資金を用意する
- ③ 大学のジユンキョウジユ
- ④ 季節がイチジユンする
- ⑤ 子供のジユンシンな心

(ロ) ダンシヨウ ||

16

- ① ダンガイ裁判が開かれる
- ② ダンシヤクの肖像画
- ③ コウダン師が登場する
- ④ オンダンな気候
- ⑤ 性能がカクダンに良くなる

(ハ) サクイン ||

17

- ① 自らのシツサクを隠す
- ② 商品情報をケンサクする
- ③ 牛のサクニユウを見学する
- ④ 畑をテツサクで囲む
- ⑤ 作文をテンサクする

(ニ) ズガイ

18

- ① 貴族が用いたテンガイつきの寝台
- ② ハンカガイがにぎわいを見せる
- ③ ガイハクな知識を披露する
- ④ 島のダンガイに追い詰められる
- ⑤ 作家のシヨウガイをかけた大作

(ホ) センカイ

19

- ① 選手センセイの役を任される
- ② 趣味でセンリュウをたしなむ
- ③ 会長候補にスイセンされる
- ④ 手術でケツセンを取り除く
- ⑤ 美しいセンリツを奏でる



## 第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えなさい。

翻訳とは、しよせん X である——。そう書いたのは『翻訳とはなにか』などの著書で知られる評論家の柳父章やなぶ ちやうだった。異なる世界を自らの言語に変換して伝えるとき、それはどこまでいっても「私たちなりの理解」に過ぎないのだと翻訳史の専門家は言いたかったのだろう。

きのう国立国会図書館で始まった企画展示「知識を世界に求めて」を見に行った。明治維新のころの日本の翻訳事情を紹介する内容だ。西周しゅうしゅう『洋字ヲ以テ国語ヲ書スルノ論』など200点に上る当時の書物が展示されている。

黄ばんだ紙に刻まれた活字から伝わってくるのは明治の人々の翻訳にかける熱情。開国したばかりの日本の知識層がいかに世界の知識を貪欲ウに吸収しようとしていたかがよく分かる。

翻訳家たちを悩ませたのはそもそも当時の日本に存在しない欧米の概念をどう訳すかだった。社会、個人、恋愛、存在……。いまは当たり前に使われる多くの言葉もこのとき生み出された造語だったと聞くと、不思議な気持ちになる。

そうした翻訳語を「多くの人が咀嚼そしやくし、自分の理解にして日本の発展につなげていった」と同館司書監の倉橋哲朗さん（54）。新たな訳語は世界を日本に伝えただけでなく、日本語を変え、日本の社会を大きく変えた。

言葉は「宝石箱」なのでも柳父は記した。最初は空っぽだが、宝石が入る箱。生まれたときは意味が伴わなくとも、徐々に言葉として「人々を惹きつける」ようになるのだと。先人たちの「X」に敬意。

〔『朝日新聞』二〇二二年一月二日「天声人語」による〕

問1 明治期の文学者とその作品のうち、翻訳作品として適切ではないものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。

解答番号は

20

- ① 坪内逍遙 | 『ハムレット』
- ② 森鷗外 | 『即興詩人』
- ③ 二葉亭四迷 | 『あひゞき』
- ④ 上田敏 | 『海潮音』
- ⑤ 夏目漱石 | 『倫敦塔』

問 2 空欄

21。

X

に共通して入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

- ① 誤解
- ② 泥縄
- ③ 蒙昧もうまい
- ④ 剽窃ひょうせつ
- ⑤ 愚鈍

問3 破線部ア「黄ばんだ」を言い換えた表現として適切ではないものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解

答番号は 22。

- ① 古色蒼然とした
- ② 流行に遅れた
- ③ 時代がかった
- ④ 年季の入った
- ⑤ 色が褪せた

問4 破線部イ「かける」を漢字に直したものととして最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答

番号は

23

- ① 欠ける
- ② 書ける
- ③ 懸ける
- ④ 架ける
- ⑤ 駆ける

問5 破線部ウ「食欲に」の本文中の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号

は 24。

- ① 拙速に
- ② ひと思いに
- ③ 針小棒大に
- ④ 手当たり次第に
- ⑤ きめ細やかに

問6

本文の主旨として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

25。

- ① 各言語の文化的背景が異なる以上、訳者がどんなに巧みに翻訳したとしても原文のニュアンスを完全に伝えることはできない。
- ② 海外文化の吸収を翻訳に頼ったのは大きな誤りであり、明治政府は日本語に代えて英語を第一言語とする改革を行うべきだった。
- ③ 明治期の日本では海外への渡航が禁じられていたため、当時の知識人たちは翻訳を通じて海外の知識を積極的に吸収していった。
- ④ 明治期の翻訳家を最も悩ませたのは、当時の日本に存在しない欧米の概念をどうやって日本語に訳すかという難題だった。
- ⑤ 翻訳語は、苦心の末に生まれた造語であったが、多くの人が自分の言葉として使いこなしていくことで魅力を持つものとなった。

問7 二重傍線部(イ)～(ホ)の品詞名を、後の①～⑧の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は

26

～

30

。

(イ) それほどこまで

(ロ) 過ぎないのだ

(ハ) どう訳すか

(ニ) 伝えただけでなく

(ホ) 意味が伴わなくとも

30

29

28

27

26

- |     |     |  |  |  |
|-----|-----|--|--|--|
| ⑤   | ①   |  |  |  |
| 副詞  | 名詞  |  |  |  |
|     | ②   |  |  |  |
| ⑥   | 動詞  |  |  |  |
| 接続詞 |     |  |  |  |
|     | ③   |  |  |  |
| ⑦   | 形容詞 |  |  |  |
| 助詞  |     |  |  |  |
|     | ④   |  |  |  |
| ⑧   | 連体詞 |  |  |  |
| 助動詞 |     |  |  |  |

◆ 写 真 提 供 等 ◆

2024年度一般入学試験前期日程(1月30日)【国語】

『朝日新聞』2022年11月12日「天声人語」

朝日新聞社(承諾番号:24-0957)

※上記記事に関して朝日新聞社に無断で転載することを禁  
じます。